

2004 年度(平成 16 年度)事業報告

2004 年度は、事業計画に基づき、会誌の発行、ニュースレターの発行、講座等の開催、第 8 回大会(科学技術館サイエンスホール)開催、3 名の海外派遣、河川整備基金 150 万円の助成を受け第 8 回大会において公開シンポジウム「河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦」を開催し、韓国のユン・ビュンマン教授(ミョンギ大学)およびジョー・ゲージャエ教授(国立プサン大学)を招いての講演を行った。地域組織としては「応用生態工学会札幌」「同仙台」「同東京」「同名古屋」「同大阪」「同福岡」が引き続き各地での拠点として活動を行ったことに加え、「応用生態工学会広島」が発足した。

1. 会誌の発行

7 巻 1 号(2004 年 8 月発行): 特集「標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価」

7 巻 2 号(2005 年 1 月発行)

2. ニュースレターの発行

- ・ No.25(2004 年 5 月 28 日発行) 委員会報告、海外派遣申込締め切り、日韓河川生態セミナー案内、その他行事案内
- ・ No.26(2004 年 7 月 5 日発行) 第 25 回理事会報告、5 力年計画総括報告および次期中期計画、第 8 回大会開催案内、投稿規程改訂、現地セミナー(シリーズ講習会: 矢作川) 開催報告、その他行事案内
- ・ No.27(2004 年 11 月 12 日発行) 第 8 回総会報告、発表賞(ポスター賞・口頭発表賞)、第 26 回理事会報告、幹事会報告、交流委員会報告、会誌編集委員会報告、海外派遣報告、共同英文誌発刊について、韓日合同セミナー報告、中国現地ワークショップ in 広島報告等
- ・ No.28(2005 年 2 月 21 日発行) 共同国際英文誌購読者募集、第 9 回大会日程決定、第 27 回理事会報告、行事報告(東北ワークショップ in 郡山、北陸ワークショップ in 新潟、矢作川・三河湾接点領域現地ワークショップ、シリーズ講習会: 木津川) 等

3. シンポジウム等の開催

下記 8 行事を開催した。各地域における開催活動が活発に進められた。

普及委員会・応用生態工学研究会広島「水系環境の保全と創造 - 自然再生に向けて - 」7/22~23。

延べ 300 名参加(現地及び広島アステールプラザ)

普及委員会・応用生態工学会大阪「兵庫県の河川自然再生 コウノトリノ舞う郷へ: シンポジウム 川の自然再生を考える, 現地見学会」8/7~8。延べ 297 名参加(兵庫県立人と自然の博物館 および豊岡市内円山川流域)

第 8 回大会開催(東京千代田区、科学技術館サイエンスホール他) 258 名参加

2004 年 10 月 1 日(金) 第 8 回総会

公開シンポジウム「河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦」

懇親会

2004 年 10 月 2 日(土) 第 8 回研究発表会

2004 年 10 月 3 日(日) 第 8 回研究発表会(つづき)

表彰式

交流委員会・応用生態工学会名古屋「矢作川・三河湾 接点領域現地ワークショップ」10/22-23。

57名参加（現地および吉良町丸十ホテル）

東北ワークショップ in 郡山「水環境と生物多様性の持続的な管理 東北の事例から考える」11/1～2。111名参加（現地および郡山市商工会議所会館）

北陸ワークショップ in 新潟「平野の環境保全 水辺と水田の環境保全と再生」11/20～21。181名参加。（現地及び富山市安田生命ホール）

沿岸の自然再生に関する特別セミナー「米国におけるチェサピーク湾再生の歴史と展望」1/20。28名参加（東京大学駒場キャンパス）

円山川自然再生フォーラム「トキとコウノトリ、野生復帰への挑戦」2/17。380名参加（兵庫県人と自然の博物館ホロンピアホール）

4. 国際交流

2004年5月に募集を開始し、8名の応募があった。8月に下記のとおりオーストラリアに派遣した。

(1)（派遣先）Societas Internationalis Limnologiae XXIX / 第29回国際陸水学会（2004年8月8日から14日まで）フィンランド、ラハティ

（派遣研究員）2名 渡航費として2名合計20万円を助成

(2)（派遣先）第5回エコハイドロリクスシンポジウム

（派遣研究員）1名 渡航費として10万円を助成

5. 公開シンポジウムの開催

国際交流の一環として、2000年度を初回として海外の有識者を招き、日本の研究者・実務者との討議を行う公開シンポジウムを、2004年度も第5回として実施した。河川整備基金については、2004年度は、前年に引き続き「応用生態工学の国際的ネットワークの構築(その5)」として申請し、2004年5月29日付けで、150万円の助成が決定された。

10月1日の第8回大会時に、公開シンポジウム『河川の自然再生にむけたアダプティブマネジメント - 極東における挑戦』を一般公開として開催した。今回は、韓国のユン・ビュンマン教授（ミョンギ大学）およびジョー・ゲージャエ教授（国立プサン大学）を招聘した。

6. 共催・後援

関連する以下の行事等を共催または後援した。

（共催：水環境学会九州支部）シリーズ講習会「水域生態系保全 - 現地説明会」全6回。合計110名参加

（後援）「公開シンポジウム：自然再生をめぐる学術と技術の展望」主催：日本学術会議森林工学研究連絡委員会。6/18。東京日本学術会議講堂。

（後援）日韓合同セミナー「Ecohydraulics and Ecological Process Principle, Practice, and Evaluation」7/4～6。日本側10名参加。韓国・ソウル。

（共催：国際セミナーTWP 実行委員会・島根大学汽水域重点プロジェクト・島根大学汽水域研究センター・(財)しまね産業振興財団)国際セミナー「美しく豊かな水環境を後世に - 島根とテキサスのパートナーシップ-」1/29-30。松江市くにびきメッセ。

（後援）沿岸環境関連学会連絡協議会 第12回ジョイント・シンポジウム「内湾河口漁場の崩壊過程 その検証を予防と再生に活かす」主催：沿岸環境関連学会連絡協議会。2/12。東京大学学際交流ホール。